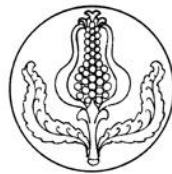


ひかり

2019 年 4 月号



日本聖公会 三光教会

第 676 号

〒142-0064 東京都品川区旗の台 6-22-24

電話 03(3781)2554

FAX 03(3781)2544

<http://nssk.org/tokyo/church/sanko/stephen/>

創立 救主降誕 1912 年(大正元年)11 月 2 日

イースター

イエスは彼らを見つめて言われた。「それはで、こう書いてあるのは、何の意味か。『家を建てる者の捨てた石、これが隅の親石となった。』」

(ルカによる福音書 20 : 17)

イエス様の心を聴くイースター

主教 フランシスコ・ザビエル 高橋 宏幸

今年は 4 月 21 日にイースター

を迎えますが、その前の一週間、

「聖週」を過ごします。中でもイ

エス様が主宰された「最後の晩餐」

と、その中で重要な教えを弟子た

ちに伝えられ、仕えることの模範

として弟子たちの足を洗われたこ

とを記念する聖木曜日、十字架刑

を引き受けられた聖金曜日（受苦

日）、お墓に納められているイエ

ス様を黙想する聖土曜日は「大い

なる（聖なる）三日間」と言われ、

これを経て初めて復活日を迎えま

す。

最後の晩餐の後イエス様は孤独

の内に祈られますが、その中身は

「できれば十字架で磔にされない

ですみますように」というもので

した。また、十字架を担がされ処

刑場へ向かう際、別の人に担いで

もらいました。十字架の上でも成

す術無しかのようなイエス様の姿

がありました。しかし、そのよう

なイエス様の姿の中に、「何度転ん

でも大丈夫、私が一緒に起き上

ってあげよう、この私も転んだの

だから。手を貸してもらってもい

い、そして手を貸せるときには差

し伸べればいい」という、イエス様

の労りと優しさの心が響いてまい

ります。ご復活の恵みの内に！

4 月～5 月の予定

◆ 4 月

21 日(日) 復活日

22 日(月) 復活後月曜日

23 日(火) 復活後火曜日

24 日(水) 復活後水曜日

25 日(木) 復活後木曜日

26 日(金) 復活後金曜日

27 日(土) 復活後土曜日

28 日(日) 復活節第 2 主日

29 日(月) 福音記者聖マルコ日

◆ 5 月

(4 / 25 より)

1 日(水) 使徒聖ピリポ・使徒聖ヤコブ日

2 日(木) 主教会博士アタナシオ

3 日(金) モニカ

4 日(土) 復活節第 3 主日

5 日(日) 5 月逝去者記念礼拝（聖餐式）

6 日(月) 聖書に学ぶ会（新約）

7 日(火) 主教会博士ナジアンゾスの

8 日(水) グレゴリー

9 日(木) 復活節第 4 主日

10 日(金) 復活節第 5 主日

11 日(土) 神学校のために祈る主日

12 日(日) 復活節第 6 主日

13 日(月) 聖書に学ぶ会（新約）

14 日(火) 主教会博士ビード

15 日(水) 復活節第 6 主日

16 日(木) 復活節第 6 主日

17 日(金) 復活節第 6 主日

18 日(土) 復活節第 6 主日

19 日(日) 復活節第 6 主日

20 日(月) 昇天日

おとめ聖マリヤの訪問

男子会だより

3月

2月17日、主日礼拝後に、ご近所の日本キリスト教団洗足教会と交流会を開催しました。

今年のテーマは「信仰の学び」で、洗足教会からは渡辺兄、三光教会からは小野兄が代表してテーマに沿ったお話をしてください、その後、信仰の学びを充実させるための取り組みや福音について意見交換を致しました。和やかな雰囲気の中での率直な意見交換により、信仰の学びの大切さが改めて実感できたひとときでした。

この春の男子会活動は、5月に恒例の母の日昼食サービスを予定しております。男子会メンバーで分担し、今年も皆さんに喜ばれるものを作ります。

6月には、昨年実施できなかった「川越」日帰り旅行を計画しています。川越は東横線から副都心線を経由して東武東上線が一本で繋がっており、都心からは1時間と便利になっております。小江戸で名高いこの町は、江戸時代の面影を多く残しており、古い街並みの散策、ご当地名物のうなぎや芋

などを使った料理やスイーツの食べ歩きを考えています。赤いレンガのシックな建物の川越基督教会の訪問も予定しています。具体的な日程が決まり次第お知らせします。

なお、この2月から男子会の会長が頼仰史から平山新に交代しました。よろしくお願いいたします。

〈今年の男子会役員〉
(記・平山 新)

- ・会長 平山 新
- ・副会長 大越保正、黒川正三
- ・会計 吉川 晃
- ・書記 永井信行、伊藤和彦
- ・企画 小野昌和、吉川和明、頼 仰史

■教会と私

「歩んできた道のり」

昭和6年(1931年) 5月2日に誕生した私は、小学校4年の時に戦争の始まりを体験しました。6年生の頃の東京空襲の時は、B25が家の上を飛んでいるのを見ました。

中学の頃には軍国教育が盛んで配属将校が学校にいて、予備の教

師も軍服を着て教壇に立つなど、厳しい教育を受けました。それ故に戦後は生徒の心も乱れ、悪事に走る者、遊びほおける者など多く将来への希望を無くす者も多くいたように思います。

昭和25年に私は立教大学文学部キリスト教学科に入学し、それとともに家の近くにあった三光教会に通い、信仰生活への道を歩み始めたのです。

幸い、両親共に洗礼を受け、父は京都大学に学びながら教会に行っていたし、母は東京の日基教会に行っていたので私の気持を理解し、家の近くにあった三光教会に行くことを認めてくれたのです。

三光教会で受洗したとき、名親になつてくださったのは当時立大での宗教活動のリーダーだった今井丞治司祭です。(安部 信夫)

■教会と私

「すべてを主に委ねて」

教会に通い始めてから一年と少し過ぎました。礼拝にもわずかながら慣れてきた頃にあった、あ

る出来事についての話です。自分なりに知識を広げたいと思い、興味の湧くままに色々と読み続けていました。そうしている内、自分の中のある疑問に気づいたのです。例えばヨハネによる福音書の「初めに言があった」という一節も、するつと体に入って来る時があれば、逆に様々な理由を思いつきなかなか読み進めない時もあります。教会の礼拝も同様でした。この事をさまざまに考えていました。そんなある日、ある人が膝まづいて両手を合わせて微動だにせず、ずつと祈っている姿が目に入りました。「長年通っている人は凄いな!」と思った次の瞬間、ハッ!と気付いたのです。祈りの場ではこれが当たり前なんだと。

【謙(へりくだ)りつつ素直な心持ち】という言葉が心に浮かんできました。そのものを目の当たりにした思いでした。うわべだけに気を取られていた自分を反省しつつも、またすぐ尊大で折れ曲がった自分が頭をもたげてくる。どうしようもない。なんとかしたい。もつと核心に進んで行きたい。そのような思いから、全てを整え、計画し、また全てを創造された方

へ自分を委ねてみようと、舵を切る決心をしたのです。

その後、きっかけもあって洗礼を志願し、授かることが出来たのですが、この出来事は、教会に通わなければきつと得られない原点・心構えを気付かせてくれた貴重な体験でした。(小野 昌和)

お世話になりました

聖職候補生 高柳 章江

2年前、三光教会の副牧師館に引越して、買い物をするためにスーパーに向かって歩きながら、私はこの街に何年いられるだろうと思ったことをしみじみ思い出します。

勤務1年目は、右も左もわからずに、なにをしていいのかもわからずに、ただただ教会の中で自分のできることを必死に探していたようにも思います。

そのような私でしたが、信徒のみなさんはよく声をかけてくださいました。みなさんから仕事を頼まれると、なんだか三光教会の一

員として認めてもらえたような気がして、とても嬉しく思ったものでした。

6時半からの朝の礼拝、「聖書を学ぶ会」や「聖歌を歌う会」、土曜日のお掃除、バザー、折々にみなさんと交わす短い会話などなど、あげればきりがありません。いろいろな場面でのみなさんとの楽しい思い出が重ねられていくと、いつのまにか異動に対する恐れが消えて、いつまでも三光教会にいられるような気持ちになっていました。いつまでもこの関係を続けたらと思っています。

ですから、当時の管理主教から電話で聖パウロ教会勤務の内示をいただいたときは、胸がドキドキしました。「ついにきてしまった」。引越しの日が決まり、荷物をまとめながら踏ん切りをつけようとしたのですが、思いのほかみなさんが名残を惜しんでくださったので、私も後ろ髪をひかれる思いでした。

3月31日。三光教会での最後の日曜日。私はチャンセルの上から陪餐を受けているみなさんの姿を見ながら、お一人お一人に心の中で「さようなら」といいました。

また、その日いらつしやらなかった方のことも思い出して、心の中でお別れをいいました。「さようなら」という言葉を重ねていくと、たくさん楽しい思い出がよみがえってきて涙がこぼれてしまいそうでした。

4月1日の朝、私はいつもの時間に目が覚めました。この日から聖パウロ教会勤務ですが、体が三光教会の時間を覚えていました。とても切ない朝でした。

聖パウロ教会で1週間が過ぎました。「不慣れ」というもどかしさの中、「To-doリスト」を作ることができないほど頭の中がガチャガチャしていて、現状把握にせいっぱいの毎日ですが、みなさまからいただいたあたたかい励ましを心の支えにして、頑張っていきたいと思っています。

三光教会も聖パウロ教会も同じ城南グループの教会ですから、きつとまた、みなさまにお目にかかれることもあると思います。どうぞそれまで、お変わりなくお過ごし下さい。今までのご厚意に感謝いたします。ありがとうございました。

* *

◆教会報「ひかり」に御寄稿を！
エッセイ「教会と私」。内容は自由、400～500字程度。広報委員にお届けください。いつでもお待ちしています。

